

## 西洋法制史〈B06A〉

配当年次	2 年次
授業科目単位数	4
科目試験出題者	森 光
文責(課題設題者)	森 光
教科書	<b>指定</b> 津野 義堂『法知の科学 2020』[初版](津野文庫)

\*中央大学生協でのみ購入可能

### 《授業の目的・到達目標》

法学という学問は、古代ローマを起点とする形で 2000 年以上受け継がれてきた人類の知的営為の上に成り立っている。こうした歴史の中で、厳密で論証可能な「科学(学問)としての法学」が構築され、さまざまな思想からの影響を受けつつ発展してきた。この授業では、法学の方法論や諸概念の歴史的発展をたどるとともに、こうした歴史の中で形成されてきた法学的思考とは何かを理解し、さらにこうした思考方法を身につけることを目指す。

### 《授業の概要》

西洋における法学という学問の起点はローマ法である。古代ローマにあって、法学の方法論や、法学上の諸概念が形成された。この授業では、古代ローマ法において形成されたこうした方法論や諸概念をまずはおさえた上で、それがいかに変化していくかをみていくことにする。

古代ローマで発展したのは、今日の民法の分野であり(より正確な言い方をすると、ローマ人が発展させた法が民法という領域にまとめられた)、この授業でも民法を例にとることがおおい。教科書では、婚姻、契約、所有権がとりあげられている。

こうした諸制度がローマ法ではいかなるものとして形作られたかをみた上で、中世の教会法、近代の自然法論でいかなる変容をうけることになるのかをみていく。

### 《学習指導》

この授業では、歴史的知識をいれることを目的とするのではなく、自分で考えることができるようになることを目指している。また、教科書もそのためのものとして作られている。したがって、レポート作成にあたっては、教科書を通読する必要はなく、いきなりレポート課題に取り組んでかまわない。

スクーリングはオンラインでの実施を予定しているため、より多くの人にとって受講しやすいものになる予定である。可能な限りスクーリングを受講することをおすすめる。

この授業のレポート課題で取り組む問題はいずれも現代の日本の法学、特に民法学でも考察の対象になるものである。現代の日本法で同じ問題を解いたらどうなるのかを常に意識してもらいたい。

### 《成績評価》

試験(科目試験またはスクーリング試験)により最終評価する。

## 西洋法制史〈B06A〉

◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）

◎字数制限：1 課題あたり 2,000 字程度（作成基準のとおり）

### 第1 課題【基礎的な問題】

「教会は、ローマ法の純粋な合意主義を利用した」（教科書 32 ページ）という教科書の記述の意味を解説しなさい。また、現代の日本法と教会法の異同についても述べる。解答にあたっては、必ず下記の点について何らかの形で述べておくこと。

- (1) ローマ法ではどうすれば婚姻が成立するか。
- (2) グレゴリウス 9 世教皇令集 (X 4.1.1) のどこにどういう形でローマ法の影響があるかを指摘すること。
- (3) トリエント公会議により要式性が要求されたことにより、婚姻成立に関しどのような変化が生じたのか。
- (4) 婚姻が成立するためには合意が必要であるとされるが、ここでいう合意とは、どういった内容についての合意でなければならないのか。

### 第2 課題【基礎的な問題】

契約の概念の変遷について述べなさい。論述にあたっては、必ず下記の点について何らかの形で述べる。

- (1) ローマ法における contractus は何を意味しているか。
- (2) ローマ法における contractus と pactum はどう違うか。
- (3) この分野において教会法学者はいかなる貢献をなしたか。
- (4) 現代的慣用における契約とローマ法の contractus はどう違うか。

### 第3 課題【応用的な問題】

プーフENDORF が「二重売り」の問題をどのように処理すべきと考えていたかを説明しなさい。説明にあたっては、下記の点について簡潔にまとめた上で、プーフENDORF の見解を整理し、その見解とローマ法との異同を述べてください。

- (1) 教科書 140 ページに掲載してあるガーイウス法学提要の抜粋を用いて（特に 2 巻）、ローマ法における所有権移転について要約しなさい。
- (2) 教科書 141 ページに掲載してあるガーイウス法学提要 4 巻からの抜粋 (Gai inst 4. 36) を用いて（なお、Gai. inst 4. 36 の冒頭にある「この訴訟」は、プーブリキアーナ訴訟を意味している）、プーブリキアーナ訴訟とは誰が誰に何を求めて訴えるための訴訟なのかについての情報を整理しなさい。

- (3) 教科書 148 ページに掲載してある D 6, 2, 9, 4 を用いて、ローマ法において二重売りの問題がどのように処理されているかを説明しなさい。

#### 第4課題【応用的な問題】

ローマ法がヨーロッパ法を通して日本に与えた影響について具体例をあげて論じなさい。

#### 〈推薦図書〉

イェーリング (村上淳一訳)

『権利のための闘争』(1982 年)

岩波書店